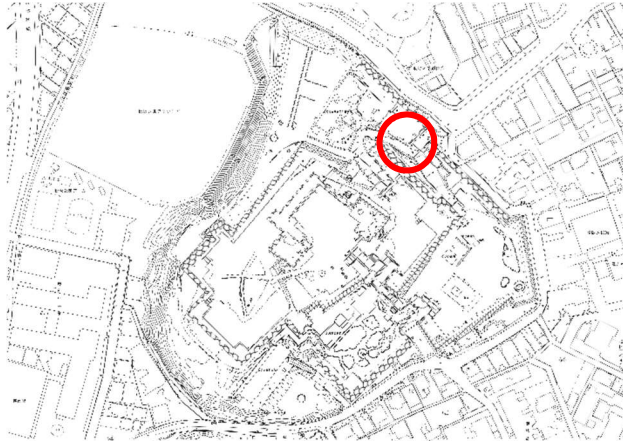


平成 30 年度 松坂城跡石垣修理の記録①

1. 石垣修理に至る経緯

昭和 63 年度～平成 15 年度にかけて、松坂城跡の石垣修理が実施されました。平成の大修理とも呼ばれる大規模な修理となりました。しかし、全ての破損箇所が修理できたわけではなく、次の機会を待つことになりました。

平成 23 年 2 月 7 日に松坂城跡が国指定の史跡となり、それ以降「保存管理計画」や「整備基本計画」を策定してきました。整備基本計画を策定する作業の中で、平成 26～27 年度にかけて石垣調査を実施し、石垣をカルテ化して現状の把握を行いました。そうすると、いくつかの石垣破損箇所や程度が判明し、早期に修理する必要があるとわかりました。早速、松坂城跡整備検討委員会では、どこから、どのような方法で修理するか議論され、まずは多くの見学者が通り、破損の程度の大きな石垣から修理を行うことになり、今回の表門跡付近の石垣の修理事業が動き始めました。



石垣修理箇所



石垣修理前（大きく変形した部分）

2. 破損の原因

石垣 No.308・309 の破損原因は様々ありますが、特に大きな影響を与えたのがクロマツの太木です。年輪の観察から樹齢約 120 年と推測できるので、およそ明治 30 年頃のクロマツであったと考えられます。クロマツの太い根が石垣を押し出し、近い将来石垣を崩落させてしまうことは明らかでした。そこで、破損原因であるクロマツを取り除くために、まず伐採を行い、石垣を部分解体の上で除根し、石垣を積み直すことになりました。

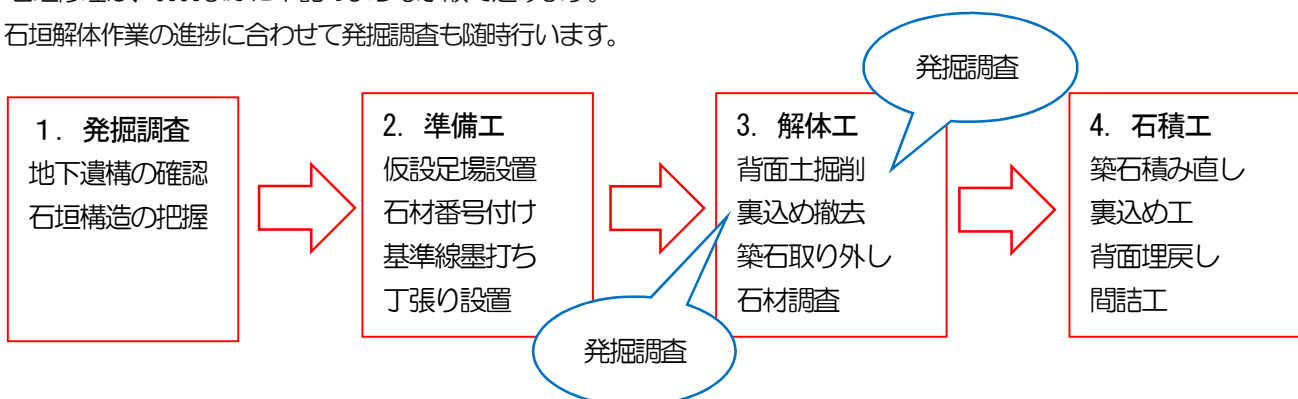
右の写真は、石垣修理前の発掘調査時のもので、太い根が張り巡っている様子がわかります。



石垣変形の主要原因となったクロマツの根

3. 石垣修理の手順

石垣修理は、おおまかに下記のような手順で進みます。
石垣解体作業の進捗に合わせて発掘調査も随時行います。



【準備工段階】



平成30年10月15日（月）

ついに石垣の前に安全柵が設置され、いよいよ修理が始まる感じが漂ってきました。

資材の買い出しや搬入、作業スペースの確保などの準備が続きます。

平成30年10月18日（木）

石材の番号付け・基準線の墨打ち

ここの石垣は、あまり高くないので足場を組む前に作業を進めることができます。



同日

石垣を構成する「築石」のひとつひとつに番号を付けます。築石の間を埋める「間詰石」にも番号を付けます。

石材の表面をよくみると、基準線が正方形のマス目状に墨打ちされていることがわかります。

このような作業を行う中でも、石工さん達は石と石の接地面や、石の表面の角度を観察し、積み直しのイメージを描いていきます。

（松阪市産業文化部 文化課）